9

保健医療福祉活動の調整

保

■【長野地域災害保健医療調整会議（HANA）】

10月17日～11月11日

- 会場
  - 長野市保健所（2階を会議、団体等の控え場所に活用）
- 事務局
  - 長野保健所と長野市保健所の職員、県庁及び県保健所の職員
  - 代表者会議の資料、議事録等の作成、各支援団体等の活動記録の取りまとめ等の作業
  - DMATから引き継いだ国貸与のパソコン、WiFi機器、プリンタ、両保健所の業務用パソコン、長野市が新たに導入した業務用大型プリンタ・コピー機を使用
- 支援団体等の登録等
  - 長野地域で活動する保健医療福祉関係の団体等に登録、活動記録の提出、HANAの代表者会議への出席を依頼
  - 新たに活動を計画している団体等に事前にHANAの代表者会議に来て、活動の必要性や活動内容を確認するよう依頼

ニーズがない分野の支援辞退もあった

10

保健医療福祉活動の調整

保

■【長野地域災害保健医療調整会議（HANA）】

10月17日～11月11日

- 1日の流れ（10月19日～）
  - 8時30分：代表者会議：当日の活動計画の確認、連絡事項等
  - 9時：市町村別ミーティング
  - 16時30分：市町村別ミーティング
  - 17時：代表者会議：課題の報告、対応策の協議等
  - 市災害対策本部会議等を通じて課題の改善を図った
- 日々の活動計画の作成
  - 各団体等の活動計画を一覧表にして共有し、避難所の管理者にも提供
- 支援団体等の活動の増減・終了
  - 被災者、被災地域の状況に応じた活動をHANAで調整
    - 例：避難所での準夜帯（21時前後まで）の看護師の駐在、DVT検診の実施等
  - 団体等の意向を踏まえ、活動終了の時期、方法を調整
  - 団体等の活動日程を一覧にした表を作成し、全体で共有

当初の会議は自由参加だった

個別の率直な意見交換も実施

11

保健医療福祉活動の調整

保

■【長野市災害保健医療調整会議（HANC）】

１１月１２日～１２月１１日

- １１月１０日に須坂市の避難所が、同１１日に千曲市の避難所がそれぞれ閉鎖され、長野地域として活動してきたHANAを同１１日で終了
- 同１２日から長野市単独の体制として「長野市災害保健医療調整会議（Health Association for Nagano City）」（HANC（ハンク））に移行
- 移行後しばらく長野保健所の職員によるサポートの元、HANAと同様の体制、活動を継続
- １２月１０日、長野市の避難所が長野運動公園１か所に統合され、看護、福祉のチームの活動が終了したことから、１２月１１日をもってHANCも終了

HANA会議50回
HANC会議31回

➡ 大きな混乱なく、数多くの団体等から多くの支援をいただくことができた

12

長野県ふくしチームの活動状況

災福ネット（長野県社会福祉協議会）作成パンフレットから

■ 避難所支援

- 先遣隊の派遣：長野市、上田市、須坂市
- 長野市・一般避難所への支援
  - 10/14～12/10、102人（延べ402人）
    - ぐんまDWAT：10/24～12/10、46人（延べ230人）
  - 開設初期の段ボールベッド組立にも参加
- 長野市・福祉避難所（１か所5人利用）への支援
  - 県介護福祉士会とともに10/14～11/30

■ 地域連携＝在宅避難者支援

- 保健師の在宅ニーズ調査に同行
- 長野市災害ボランティアセンターにてニーズ調査・専門相談
- 支援NPO等の情報収集

■ 事業所支援

- 被災事業所の地域貢献活動支援　→　12/12豊野ぬくぬく亭
- 長野市北部被災事業所連絡会（11/7、12/24）

13

長野県ふくしチームの活動内容

災福ネット（長野県社会福祉協議会）作成パンフレットから

■ 一般避難所支援（DWAT機能）

- ラウンド・アセスメント
  - 保健、看護チームと連携して要配慮者等に声掛け
  - 服薬確認、血圧・体温測定などを通じて体調、不安、被災体験などに傾聴
- 要配慮者支援
  - 定期的な見守り、服薬管理、声掛け
  - 福祉サービス利用支援、地元相談機関へのつなぎ
  - 相談機関と連携して病院やデイサービスへの送り出し支援
- 環境整備
  - 階段の手すり設置
- なんでも相談コーナー
- 集いの場づくり
  - 理学療法士会と連携して高齢者等を対象に介護予防の体操

■ 福祉避難所支援

- 発災日に福祉避難所の設置を支援し、介護職の派遣も調整

■ 地域連携

- 介護支援専門員、看護師による被災者相談

14

保健所から見た福祉チーム・支援者の活動

ここでの連携が非常に役立ちました！

■ 柔軟な活動手法

- 発災当日から現場に入り、当初から保健医療調整会議にも参加
  - そして、最後まで参加！
- 数多くの避難所に対して、常駐・巡回を組み合わせて対応
- 被災者が避難所に戻ってくる夜間に活動した時期もあった

■ 発災後１週間における保健医療活動との連携例

ごく一部です

- 福祉避難所の周知不足を指摘し、具体的な周知方法を提案
- 知的障害者への支援を通じてその両親の救出につなげた
- 膝痛の方のために避難所の和式トイレを洋式化する物品を手配
- 「なんでも相談コーナー」を通じて精神障害者や新たな要支援者の情報を保健サイドにつなげた
- 通院手段がないことを指摘し、福祉タクシーの周知につなげた
- 避難所の託児スペースにおける感染対策を提案
- 認知症の人に保健サイドと連携して対応するよう提案
- 骨折している人に段ボールベッドの使用を勧め、保健師に引き継ぐ

15　介護施設から病院に退避した入所者への対応　保

- 災害派遣医療チーム（DMAT）等が10月14日から16日にかけて豊野地区の複合型介護施設の入所者276人（介護医療院59人、老健94人、特養72人等）を救出
  - うち129人が急性期診療を行っている9病院に搬送
- 15日、急性期病院から「急性期診療継続のためには早期の転院が必要。保健所にその調整をお願いしたい」と依頼あり
- 16日、長野県の基幹災害拠点病院である長野赤十字病院と当所の連名により転院調整の一時見合わせを依頼
- 17日、9病院地域連携担当者と転院調整ルールを検討
- 転院調整ルール
  - 回復期等の16病院に受入れ可能数を照会 → その結果を9病院に提示 → 9病院が転院希望枠を報告 → 保健所が転院交渉枠を9病院に提示 → 個別の転院調整
  - この流れを3回繰り返した
- 101人の転院・転所が可能となり、11月7日、調整を終了